

時間の長さ

同じ人生でも、密度（みつど）の濃（こ）い人生と密度の薄（うす）い人生があります。その違いが生まれてしまうのは、どうしてなのでしょう。それは、時間というものは不平等（ふびょうどう）なものだからです。

こんな言葉を見たり、聞いたりしたことはないでしょうか。「時間は、誰にでも平等に与えられている」確かにそうです。誰にとっても1日は24時間です。1週間は7日です。

*漫然（まんぜん） ぼんやりとして心にとめないさま。

しかし、この言葉は真実（しんじつ）なのでしょう。時間の密度は、人によってまったく違います。人によって、まったく不平等です。

この前、県立美術館に「ドラえもん展」を見に行きました。予想以上に多くの人が来館していました。そこで、こんなことを考えました。

例えば、美術館に展示されている様々な絵を、ただ漫然（まんぜん）と眺（なが）めて歩き、時間を過ごすだけの人がいます。一方、一つ一つの絵を、静かな心で正対（せいたい）して見つめ、その絵を通じて、その作家の魂（たましい）のようなものと対話している人がいます。それぞれの作品から、様々な感動を得ながら時間を過ごす人です。両者の時間の密度は、まったく違います。

これは、人生についても言えることです。すなわち、中学校生活にも言えることです。中学校の3年間を、ただ漫然と何となく過ごした人と、一日一日を大切にしてお過ごした人とは、その「密度」には、何倍もの違いが生まれてしまいます。

以前の私は、美術館に行って有名な絵画（かいが）を見ても、何となく眺めているだけでした。私の中学校生活も、同じようなものでした。確かな目標というものがないように思います。とてもとても一日一日を大切にしていたとは言えません。

数年前からでしょうか。美術館の絵画をじっくりと見つめることができるようになりました。先日も、様々なドラえもんがいましたが、一つ一つの作品と語り合いました。やっぱりドラえもんは、すごかった。

きっと、私の生き方が変わってきたのだと思います。少しは、一日の重さを考えるようになってきました。中学生の皆さんには、まだまだむずかしいことかもしれませんが、それでも、考える価値はあることです。

もし、私が中学時代の自分に何か言えるとしたら「正男君、もう少し何とかならないの？今がんばらないと、あとで苦労するよ」となります。今考えても、なんで、もう少し努力しなかったのだろうと思います。何も考えていなかったということでしょうか。考える力が足りなかったのでしょうか。

時間の長さは、人によって違います。中学時代の長さも、人によって変わってきます。さて、皆さんは、どのくらい密度の濃い中学時代にすることができるのでしょうか。